【1】アンケートの趣旨

痴漢は性暴力であり、人権を侵害する性犯罪であるにもかかわらず、軽んじられ、日々、被害と加害が繰り返されています。東京を、誰にとっても安全な、ジェンダー平等先進都市にしていきたいとの思いから、痴漢被害の実態を把握し、政策や議会活動にいかす目的でとりくみました。

【2】アンケート結果の概要

- 1.実施期間 2020年8月8日~11月11日
- 2.実施方法 インターネットアンケート（Google フォーム）
- 3.回答者数 1435人。その内アンケート開始から1ヶ月以内の回答が1300件を超えました。
- 4.性別・性自認 自由記述で尋ね、女性からの回答が83%を占めました。男性の回答は3.1%、男性・女性・「シス」等以外の性自認の記載は7.0%でした。
- 5.痴漢被害の概要 性的接触などの痴漢被害やハラスメント被害をうけたことがあるとの回答が1394人で全体の96%。「被害をうけた年齢」として18歳以下が71.5%、小学生以下（12歳以下）が34.5%にのびりました。「通学中は連日」など、中学生・高校生が多く狙われている傾向が示されています。「被害にあった地域」は東京都65.6%、神奈川県20.6%、埼玉県11.4%、千葉県8.6%。

【3】具体的な痴漢被害の状況

1.「どのような被害をうけましたか？」(複数回答)——痴漢被害は多岐にわたり、日常的にある

- ◇「お尻を触られた」(65.2%)、「体を密着させられた」(60.1%)、「『胸大きいね』『1万円はどう?』など不快なよびかけ」(43.3%)、「胸を触られた」(43.1%)、「(性器などを)見せられた」(40.0%)、「性器を押しつけられた」(36.0%)、「あとをつけられた」(35.2%)、「じっと見られた」(33.5%)、「ぶつかられた」(30.7%)、「性器を触られた」(26.4%)などが多く、「触られそうになった」(21.6%)、「服の中をのぞかれた」(18.0%)、「盗撮された」16.9%、「匂いがかがれた」(14.5%)、「髪の毛を触られた」(12.9%)、「精液や唾液をかけられた」(7.3%)、「舐められた」(5.4%)など、被害の種類は多岐にわたっています。また、「怒鳴られた」、「叩かれた」、「けられた」などの暴力や、刑法上の性犯罪やその未遂と思われるものも多数あり、生命の危険を感じさせるものもありました。性的画像などを送りつけられる「オンラインハラスメント」の被害もありました。
- ◇自由記述欄には、電車内痴漢は「繰り返し」「覚え切れないほど日常的にある」などの記述が多数。とくに中学生・高校生の「通学中は連日」という回答がめだちました。また「幼少期から大人になるまでずっと」被害が続いている人もいました。幼児や小学生の被害は路上が多く、「そのときは何をされたか理解できなかった」「助けを求めているのかがわからなかった」という回答も多くありました。
- ◇「初めて詳細を書きました。ほとんど人に話したこともありません。もっとつらい思いをされた方は、話すことができないのもっともだと思います」「具体的には言いたくない」「書くのは心がしんどくて、少し難しいです」など、語られていないことがさらに膨大にあり、アンケートに寄せられた被害は、氷山の一角

であると考えられます。

2.「被害にあった場所」(複数回答)——「電車の中」「路上」が多い

「電車の中」(76.5%)、「路上」(62.7%)、「駅構内」(34.6%)、「図書館など公共施設」(11.2%)、「バス」9.3%、「プール」(5.6%)、「映画館」(5.6%)。自由記述では整体院、歯科や乳がん検診など診療時なども。

3.「被害にあった時、どうしましたか。周りの反応は？」(複数回答)——「何もできなかった」「怖くて反応できなかった」が圧倒的多数

- ◇「何もできなかった」(54.8%)、「怖くて反応できなかった」(49.8%)、「怖くて逃げた」(37.7%)が圧倒的で、「時間がなくて(通報など)対応できなかった」(17.8%)も多くなっています。「声をあげた」は17.1%、「助けを求めた」は8.0%、「駅員に通報」5.2%にすぎません。「加害者を捕まえた」人は3.8%です。
- ◇「周りは無関心だった」の回答が35.0%にのぼり、「周りが助けてくれた」(6.4%)、「周りが大丈夫?などと声をかけてくれた」(5.0%)は少数です。被害にあい、周りの人が助けてくれない社会に「女性にとって日本は安全な国ではない」「私は女性として日本に生まれたことにとっても絶望」との記述もありました。

4.「どんな気持ちになりましたか？」(自由記述式・記述数 1076 人)——「恐怖感」、後遺症など被害女性の受ける精神的肉体的苦痛は深刻で、人生への打撃を与えている

- ◇「恐怖感、凍り付き」、「不快感」、「怒り」の感情がリアルに記述されていました。「男性が隣に座ると怖くて動けない」「父親を含め男性と話せなくなった」など「男性に対する嫌悪・不信感」が強く示されています。被害時の負の感情がさらに時間の経過と共に複雑に増幅され、「満員電車、座れない電車が怖くなり、途中下車してしまうために不登校に」「電車に乗るとパニックになり電車に乗れない」「道を歩くという普通のことに過剰な緊張や警戒心が強くなり心理的負担」「鬱になって働けなくなった」「被害に遭って以来一人で外出したことがない」「頻繁なフラッシュバックで受験勉強に支障」などPTSD、ノイローゼ、不眠、自傷など多くの人が深刻な後遺症に苦しんでいます。被害に遭ってしまった自分を責め、自責の念に陥り、「死にたい」という方が13人もいました。「精神・身体の不調に現れ、治療しなくてはならない」「日常生活、行動への制約・変化を余儀なくされる」など女性の人生に深刻な打撃を与えています。
- ◇痴漢行為が被害女性に対し、どれだけ深刻な精神的肉体的苦痛や人生への打撃を与えているか、理解することが、痴漢対策のうえできわめて重要だと考えます。

5.「被害を誰かに話せましたか？その結果はどうになりましたか？」(自由記述式)——セカンドレイプが深刻

- ◇被害を「(家族、友人、知人など)誰かに話せた人」は62.8%でした。「話そうと思わなかった」(27.7%)、「話したかったができなかった」(21.5%)という人も多くいました(複数回答)。
- ◇友人、母親等に話をして「私の代わりにたくさん怒ってくれて救われた」「一緒に警察に行ってくれた」という肯定的な経験になっている回答は少数で、誰かに話した場合、その多くが「どうすることもできないから忘れろ」「よくあることだから諦めろ」と言われたり、「触られるうちが華」「尻ぐらいいだろ」「その程度で騒ぐな」など軽視、矮小化されたり、嘲笑されたりしています。「喜んでんじゃないの？」と信頼していた友人や教師に言われて、それ以来誰にも言えなくなったという人や、「あなたが誘惑するような変な態度をとったんじゃないの?」「そんな恰好しているから」「隙があるから」と逆に被害者が責められるケースが多数記述されていました。なかには、話した相手から性加害をうけたという方もいました。男性、トラ

ンスジェンダー（MTF）が被害者の場合、「笑われた」「『元男なのに？』と身体と被害を馬鹿にされた」など話したことにより傷つけられています。また、同性の友人に話した場合は、「友人全員」、「周りの7～8割」が痴漢被害にあったことがあるなど、友人も同様の経験をしていたというケースが多くありました。

- ◇警察・公的機関に連絡、通報したことがあるという回答は73件で被害を受けたことのある人の5.2%ときわめて少なく、相談してもまともに対応されない事例、セカンドレイプの事例が多数記述されていました。「警察に『痴漢されたらちゃんと抵抗してくれ』と言われた」「翌日警察に相談したが、時間がたっていることを理由に話も聞いてもらえなかった」「男性の警察官から『なぜそうなる前に逃げなかったのか』『愛想よくしていいのではないか』などこちらが悪いというふうに話をされ、余計に傷ついた」「『あなたは太っていて眼鏡をかけているから男が相手にするわけがない』『作り話やめなよ』など5人くらいの警察官から嘲笑され、追い払われた」など、問題ある対応が列挙されています。

6. 「どんな支援があると、ひとりで抱え込まずに状況を伝えてみようと思えますか？」(自由記述)——話を否定せず、聞いてくれる場所、人が求められている。何よりも痴漢が犯罪であることの周知徹底

- ◇「話を聞いてくれる場所、人」が求められています。その際、「否定せず聞いてうけいれてくれるコールセンターのような機関」「寄り添いながら一緒に考えてくれる支援」など、「話しても責められない、否定されない」ことが重要であり、「被害者側をせめる社会をなくす」「セカンドレイプをなくす」ことを強く求める回答が多数でした。公的機関として「性暴力被害者センターの充実」「24時間ホットライン」など「被害にあったときの窓口を多様なチャンネルで用意、広く告知してほしい」「匿名で通報、相談できる制度」などを要望しています。
- ◇設問に対して「被害を伝えるための支援より防止対策を考えるべき」との指摘もありました。「何よりも、痴漢が性暴力であり、犯罪であることの周知徹底が必要」「社会のあり方を変える」「痴漢を許さない社会にすることが大切」という意見が多く寄せられました。
- ◇犯人を捜査、捕まえてくれることを望んでいます。「犯罪者への処罰」、「加害者への更正プログラム」などの要望もありました。警察に対しては「犯罪として警察が動くこと」、「女性の警官を増やす」、「警察官への研修」など対応の改善を求める声も多く寄せられました。
- ◇幼少期からの被害が多いことについて、「幼い頃から『こういう犯罪がある』『それは訴えてもいいこと』という性教育が必要」と包括的性教育の重要性の指摘もありました。
- ◇「満員電車の解消」をはじめ「電車内のアナウンス」「防犯カメラの設置」「駅構内のポスター掲示」「各駅に痴漢相談窓口を」など鉄道事業者の努力も求めています。「被害にあった人が即座に通報できる手段」として、「痴漢通報アプリ」「痴漢防止アプリ」の活用なども提案されています。

「今回のようなWeb上の匿名アンケートは被害を打ち明けやすい」「痴漢被害の実態をもっと知ってもらいたい」など、アンケートへの感謝の言葉とともに、「結果を公表、対策に生かしてほしい」との強い要望が寄せられました。アンケートで届けてくださった声をしっかり受け止め、解決にむけたとりくみを強めるとともに、背景にある日本社会のジェンダー差別の構造的ゆがみをただし、ジェンダー平等社会を実現していくために全力をあげます。

以上